

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	沖縄県
-------	-----

学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	石川市立伊波小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	3	4	4	4	4	1	24	32
児童数	129	119	123	137	138	143	2	791	

研究の概要

1. 研究主題

一人一人にわかる喜びを味わわせる指導法の工夫・改善
～個に応じた指導を通して～

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

- ・ 4、5、6年生・算数(少人数授業)
一人一人に応じた学習支援の方法や多様な学習形態での工夫や指導ができる。
- ・ 6年生 教科担任制の導入(体育、図工、家庭科)
教師の専門性を生かした実技指導、学習指導ができ、児童への多様なアプローチができる。
中学校へのスムーズな対応と学年全体を通した生徒指導が可能である。

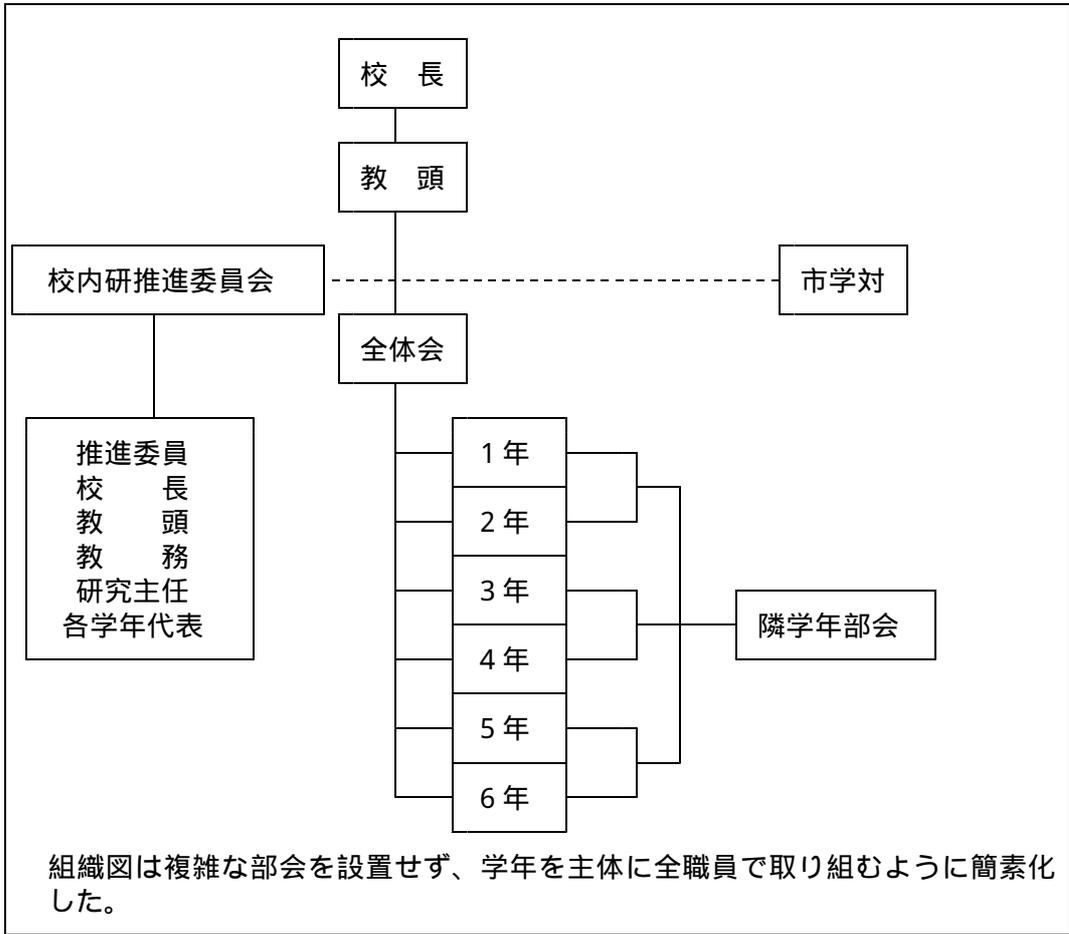
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 「習熟度別指導の展開と指導形態の工夫」</p> <p>研究仮説</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 少人数指導を導入し、今までよりさらに細かい個別指導を実践することでわかる喜びを味わう児童が増え、学習意欲が高まるであろう。 ・ 実技教科を教科担任制で実施すれば、一貫性のあるより専門的な学習ができ、できる喜びにつながるであろう。 ・ 基礎基本の時間の確保や読書の時間の設置により、より多くの児童に個別指導ができ、読書量も増えるであろう。 <p>研究の内容・方法</p> <p>算数科について</p> <p>基礎的・基本的事項の実態調査・分析 基礎基本の定着を図る取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 朝のドリル時間の活用 ・ 基礎基本の時間確保(週1時間) ・ 放課後を活用した補習指導 <p>少人数指導で個に応じた指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 習熟度別学習で基礎的・基本的内容の習熟を図る。 ・ 個に応じたきめ細かな指導の展開 <p>TT指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 専科や担外の協力を得ての補習指導
--------	---

	<p>教科担任制の実施 教科担任制の実施（体育、家庭、図工） 教科担任制実施における調査 その他 基礎基本テストの実施と分析（石川市作成算数） 標準学力テストの実施と分析（3年～6年） 総合的な学習の時間の充実（NAT・ALTの活用）</p> <p>家庭学習の工夫・充実 生活実態調査の実施と分析 読書の時間の設置 家庭、地域との連携（実践報告会の実施） ホームページの作成</p>
--	---

平成 16 年度	<p>テーマ 今年度同様</p> <p>研究の内容・方法 今年度の研究の成果と課題をふまえ、研究の継続と深化を図る。</p>
----------------	---

(3) 研究推進体制

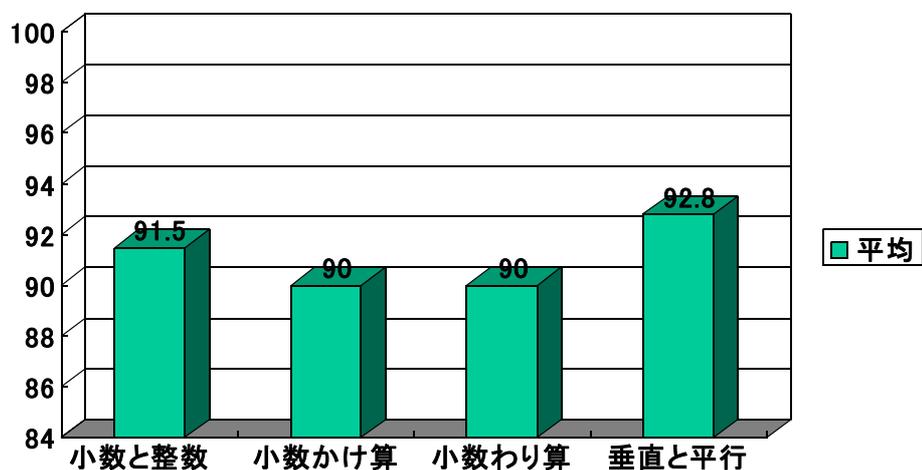


平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- ・今までの授業の中で時間を作るのが困難であった個別指導がより多くの児童に行うことができた。
- ・自分のペースで学習できる子が増え、子どもを把握でき、的確な支援ができた。
- ・達成目標を確実にこえる児童が増えた。
- ・教材研究において複数の教師が授業を計画することでお互いが刺激になり、細かな計画が立てられた。
- ・参観日や実践報告会、日常の保護者との会話で、「子どもが算数が好きになっている」「少人数の効果がでてきているみたい」などの少人数指導に積極的な意見が聞こえるようになった。
- ・学力向上に向けた全職員の理解と協力体制ができた。
- ・問題解決学習的な授業展開が実践できつつある。
- ・日々の授業において、教科の基礎・基本を図る取り組みがなされた。
- ・少人数指導やTT指導、習熟度におけるコース別選択など多様な学習形態での工夫・実践ができた。

5 学年 1 学期 単元



少人数指導を展開し、習熟度別クラス編成を行い、一斉、少人数授業、TT指導など単元の内容に応じて様々な形態での指導を展開した結果、単元末テストでの到達度がどの単元においても全国標準値を超えることができた。

2. 今後の課題

- ・教材研究をしたり打ち合わせをする時間の工夫と確保
- ・より細かくコースを分ける工夫に取り組みたい。(担外教師との連携)
- ・中間層のレベルアップの指導法を模索していきたい。
- ・補習教材、発展教材の開発に取り組みたい。
- ・学習支援ボランティア体制づくりと効果的な活用に取り組みたい。

